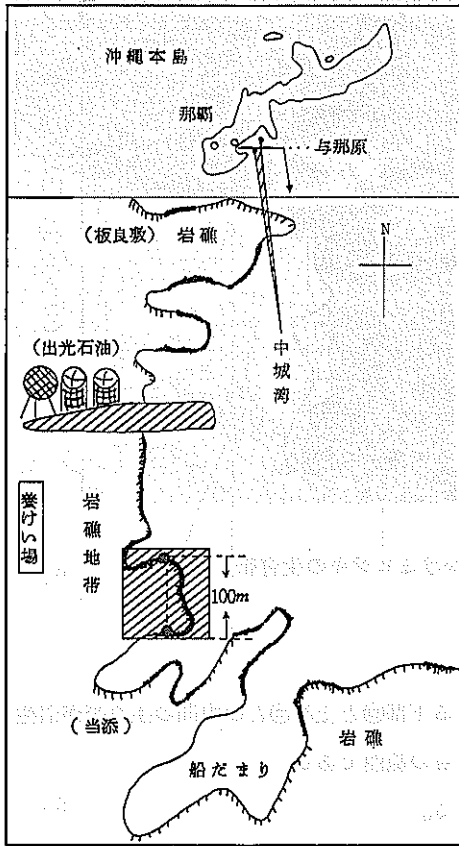


# 沖縄産ヒジキの生育状況について

瀬底正武



第1図 中城湾に面した板良敷、当添沿岸一帯におけるヒジキの着生状況

: 調査観察地点  
 : ヒジキの着生分布状況

## I 調査の目的

この調査は、有用海藻類の増殖の一環として実施したものである。

特に、ヒジキの増殖を試みるに当たっての基礎調査として、①株の生長（摘採期、流失期、生長期の確認）、②生育帯（採取適層の確認）、③葉茎の流失状況について、1973年4月～1974年にかけて、中城湾に面した与那原町当添、板良敷沿岸において、観察調査を行なったので、その概要を報告し今後の普及指導の資料としたい。

## II 調査結果

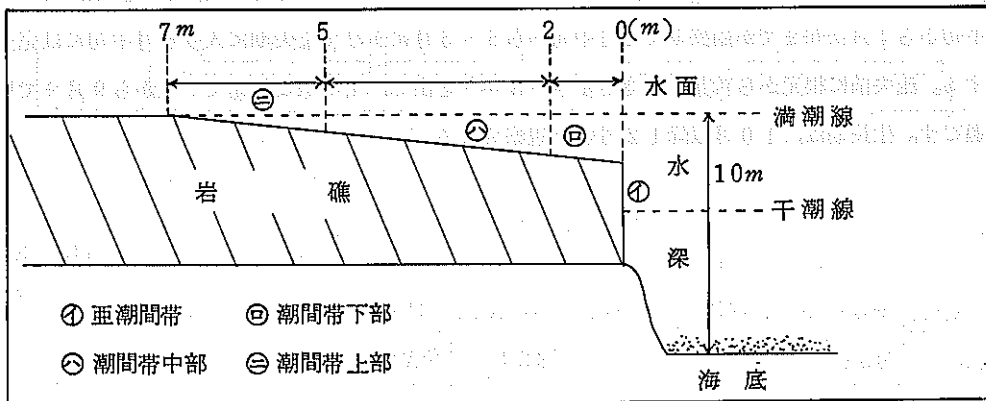
### 1. 着生状況と着生基質

ヒジキの着生地域は、沖縄本島では東海岸が主産地で、特に中城湾に面した知念半島から与那原の当添、板良敷の間が多産する。

着生状況は、後述するが、浪がやや静かに上、下する潮間帯下部から、中部にかけて多く着生し、波浪の激する亜潮間帯においてはヒジキの着生は少ない。

着生基質の状況は、主に岩礁地帯で岩盤の形状も凹凸状で、西海岸一帯でみられるような干潟周辺に点在する岩盤とは異なる基質である。

（第1図はもっとも多産する与那原町当添、板良敷沿岸にかけての着生状況と調査地点を示した。）



第2図 ヒジキの生育帯

## 2. 生育地帯

ヒジキの生育帯については、  
第2図、第3図に示した。

(1) 第2図の①第3図の①の  
亜潮間帯におけるヒジキの着  
生はほとんど観察されず、ホ  
ンダワラ類やその他の褐藻類  
の混生がいちぢるしくみられ  
る。

同生育帯のヒジキは新芽の生  
長が早く流失も早いようであ  
る。

(2) 第2図の②第3図の②の  
潮間帯下部の場合は岩盤の先  
端から2mの範囲にヒジキの

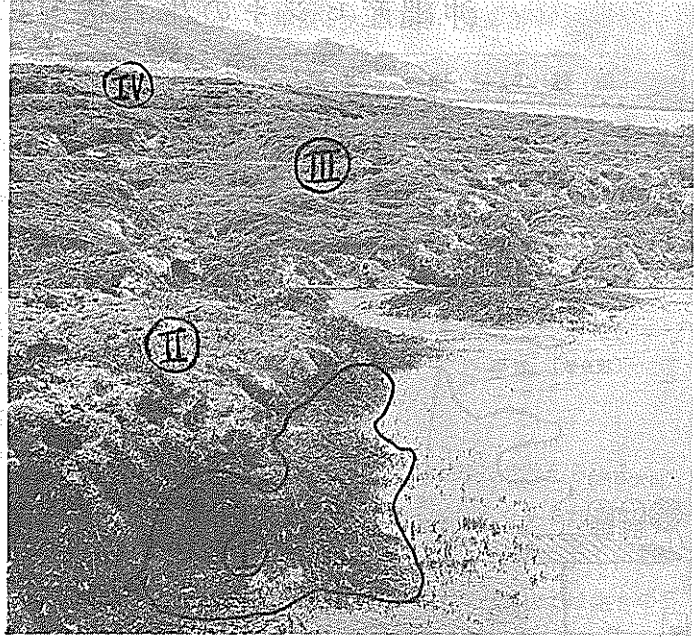
着生がみられるが、亜潮間帯  
からの連続で混生藻の繁茂があり採取適層ではない。

(3) 採取適層は第2図の③第3図の③の潮間帯中部いわゆる下部④と上部⑤との中間の生育帯が着生  
がもっとも多く、その範囲は下部から上部にかけて3~4mの範囲である。

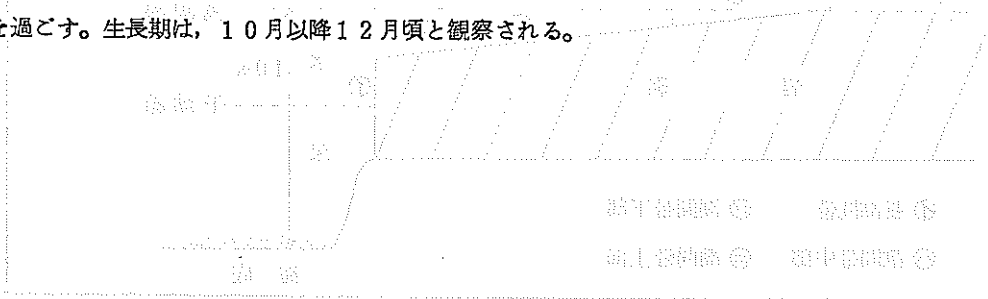
したがって、ヒジキの生育適層は⑤>④>③の順となる。

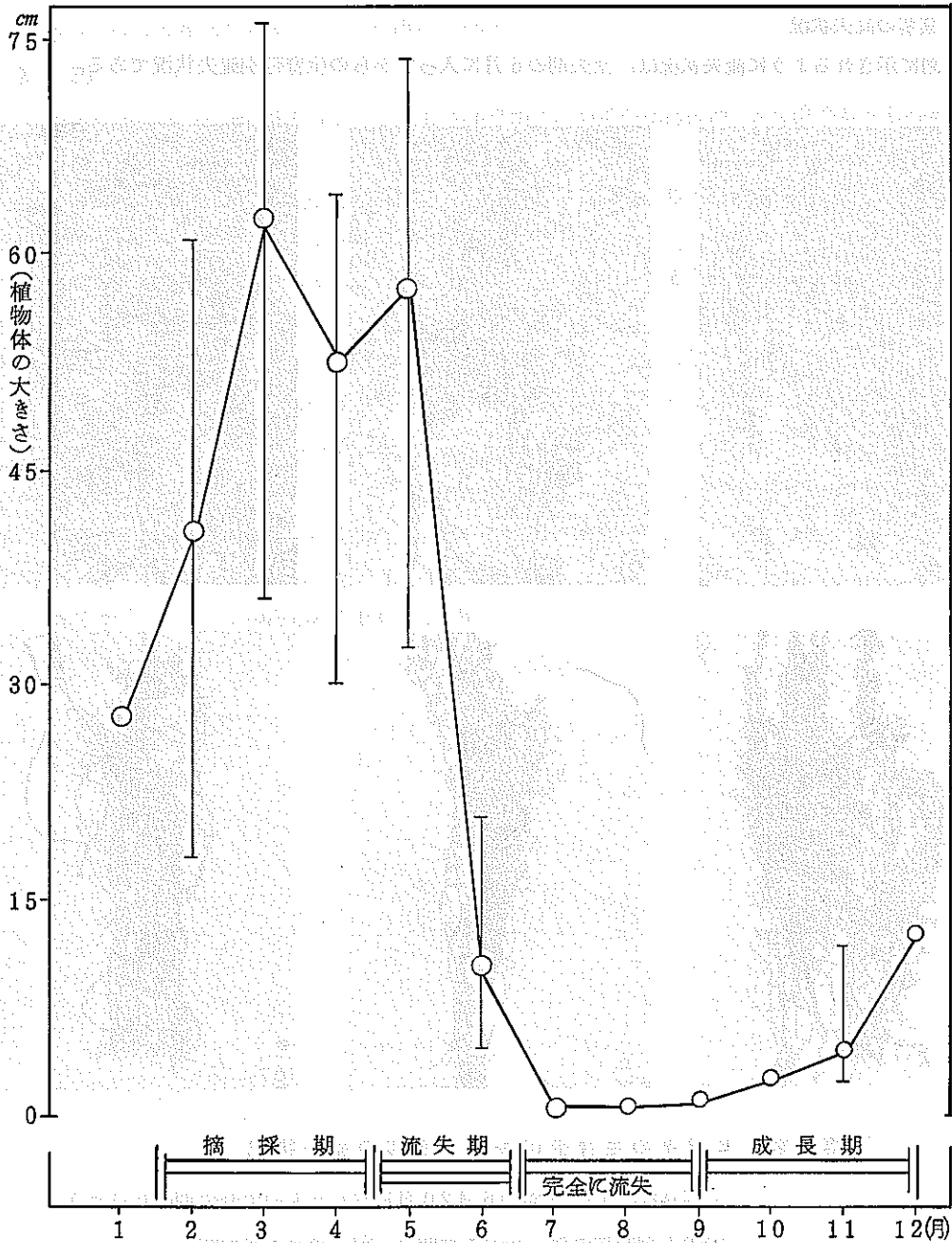
## 3. 株の生長

ヒジキは、ホンダワラ類によく似ており十分に生長すると60~70cmくらいに達し、繊維状根で岩  
面にはい、枝分れすると茎の両縁に荒い鋸歯を持った長卵形へら形の葉をつける。(1964:香村)  
その生長は、第4図に示されるように、11月以降1~2月にかけて、急速に生長する。生長過程は、  
1月中旬から4月初旬までが摘採期で4月中旬から5~6月にかけて流失期に入り6月中旬には完全に  
流失する。流失前に根元から新芽(大きさ4mm~8mm)を出し、その様な状態で7月から9月まで夏の  
間を過ごす。生長期は、10月以降12月頃と観察される。



第3図：天然におけるヒジキの生育帯





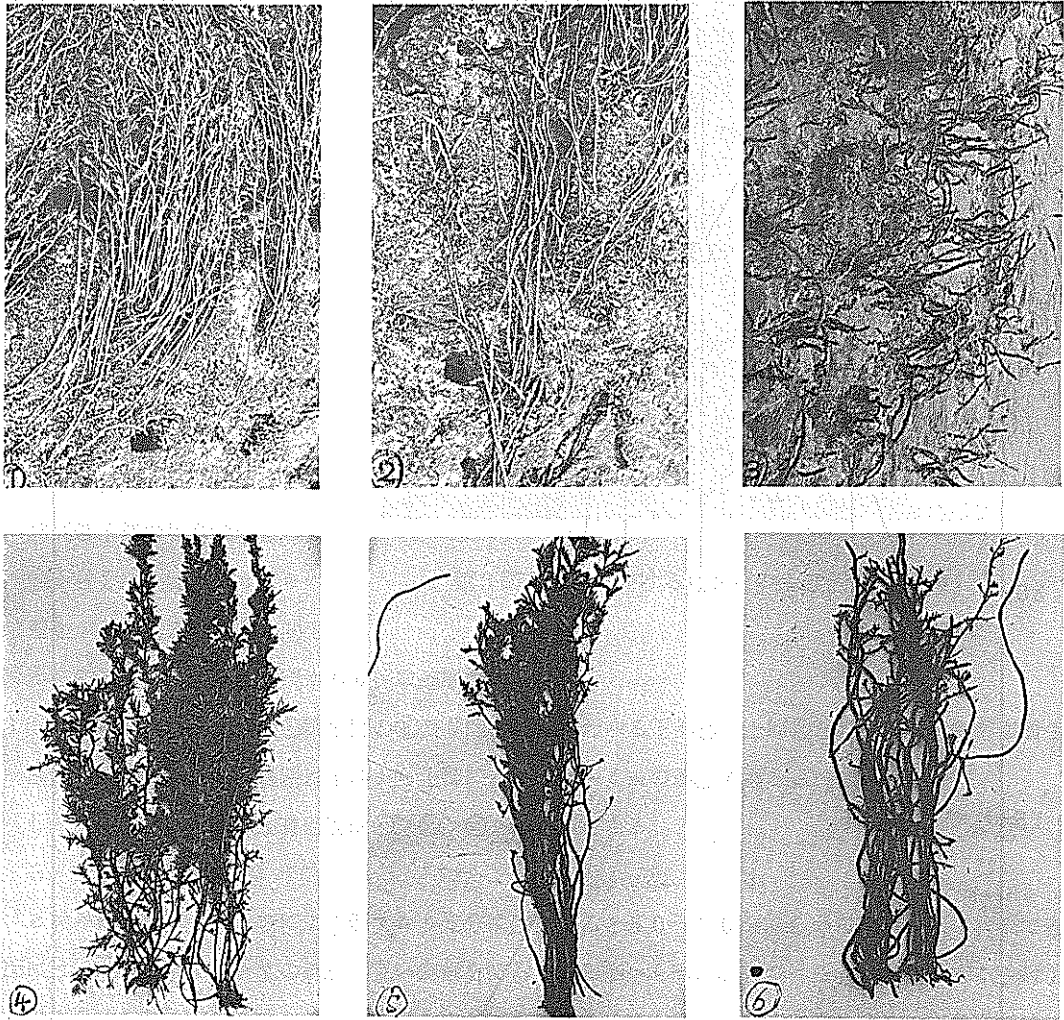
第4図 ヒシキ株の成長

調査時の水温比重

調査月日 事項	1973年				1974年			
	6月20日	7月26日	9月8日	11月28日	2月9日	3月28日	6月18日	8月21日
水温	24.5°	26.9°	27.5°	23.2°	18.0°	20.5°	26.8°	30.2°
比重	1.0240	1.0225	1.0225	1.0240	1.0250	1.0240	1.0220	1.0210

#### 4. 葉茎の流失状況

第5図に示されるように流失状況は、流失期の6月に入ってからの生育帯別流失状況である。



第5図 ヒジキの生育帯における葉茎の流失状況

(写真は、1973年の6月20日に写したもので流失期のヒジキ)

①④：潮間帯中部 ②⑤：潮間帯下部 ③⑥：亜潮間帯

流失の早い生育帯は第5図に示されるように亜潮間帯で、次に潮間帯下部、中部、上部の順でおそくなる。

生育帯別ヒジキの植物体の大きさについては資料不足のため図示できないが、観察調査から言えることは、潮間帯中部から下部にかけての植物体の大きさは60～70cmにも生長するが、潮間帯上部及び亜潮間帯は、中部、下部にくらべて植物体は小さく着生量も少ない。その原因については、干しつ時間と

の関係ではないかと推察されるが、現在の所明らかでない。

### III 要 約

- (1) ヒジキの着生地域は沖縄本島では、東海岸が主産地で、特に中城湾に面した知念半島から与那原の当添、板良敷の間が多産する。
- (2) ヒジキの生育帯は、亜潮間帯から潮間帯上部にかけてであるが、生育適層は潮間帯中部である。
- (3) ヒジキは十分に生育すると60~70cmに達する。
- (4) 摘採期は1月中旬から4月初旬で、4月の中旬から流失期に入り6月中旬には完全に流失する。生長期は10月中旬から12月にかけてである。
- (5) ヒジキの流失は、亜潮間帯ほど早く次に潮間帯下部、中部、上部の順におそくなる。
- (6) 植物体の大きさは、潮間帯中部を中心に、上部にいけばいくほど小さく、着生量も少なく、下部にいけばいくほど小さく、その量も少ない。

### IV 参考文献

- (1) 須藤後造(1951): ヒジキの株の生長について(日水誌第17.1)
- (2) 香村真徳(1964): 郷土の海藻-Ⅱ(水産だより)
- (3) 黒木宗尚( ): 浅海増殖60種P348